

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会

人それぞれが、独自の「からくり」を楽しむ作品を

原田 和明 山口／オートマタ作家



スーパーバイザー
小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科に通う。伝説の深夜番組「カノッサの屈辱」でその名を世間に広め、「進め!電波少年」や「料理の鉄人」など、数多くのヒット番組の企画・構成に携わる。「くまモン」の生みの親でもある。



1月17日、プレゼンテーションにて

2年目となった今年は、全国47都道府県から計51名の若き匠が選出。昨年度、レクサスギャラリー高輪で行われたキックオフ・セッションを皮切りに、

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」は、日本各地で地域の独自性や伝統技術を生かし、新しいモノづくりに挑む「匠」を応援する。

本プロジェクトは2016年、放送作家として「料理の鉄人」などの多くのヒット番組を手がけ、またくまモンの生みの親でもある小山薫堂氏をプロジェクトのスーパーバイザーに迎え、隈研吾氏（建築家/東京大学教授）、生駒芳子氏（ファッション・ジャーナリスト/アート・プロデュサー）、下川一哉氏（意匠研究所）らをサポートメンバーに発足。



商談会で作品を説明する原田さん

切りに、サポートメンバーが実際に工房を訪ね、途中経過のプロジェクトをうけて行うエリア・コンサルティングを経て、匠は自身のアイデアを磨き、プロジェクトの試作に取り組んだ。

1月17日に都内で行われた商談会では、百貨店・セレクトショップバイヤー・メディア・デザイン関係者などに向けて半年間をかけて製作した自身のプロジェクトをプレゼンテーション。

「匠」のモノづくりを応援 レクサスが日本全国の

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」（主催：レクサス）は、日本各地で地域の独自性や伝統技術を生かし、新しいモノづくりに挑む「匠」を応援する。

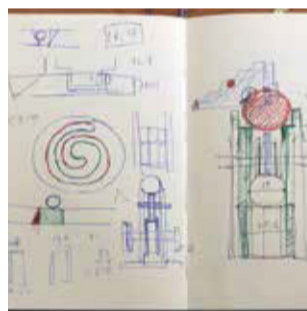
独特の世界観の からくり作品

原田さんが手掛けるオートマタ（からくり人形）作品は、ハンドルを回すと、どこか奇妙でユーモラスな動きを繰り返す、見るものを独特の世界に引き込んでいく。

アメリカや中国、東南アジア各国をはじめ国内外各地から依頼の声が掛かり、展覧会やワークショップなどで忙しい日々を送る。オンラインショップの作品群は売り切れ状態が続く人気ぶり。手間がかかるため作品を量産できず、ニーズに応えきれないことが悩みという。「好きで作ったものをすごく評価してもらえる、良い段階にいると思う。この状態を維持していきたいように努力したい」と原田さん。

マーブルマシンを 発展させたい

2年前、工房を構える山口市秋穂にある道の駅から地元をテーマにしたオートマタの制作を依頼された原田さんは、木球が複数のからくりを伝って巡回する「マーブルマシン」と呼ばれる種類の装置で、地元名産のトマトに見立てた赤い木球がお遍路巡りをするというアイデアの作品を生み出した。この作品「AIO88」は、地元の道の駅に常設展示され、誰もが気軽に楽しむことができる。



原田さんのオートマタ設計ラフ案

評判がとて良く、作品の出来に満足していた原田さんは、「AIO88」のようなマーブルマシンを発展させ、もっと仕掛けに凝った複雑なマーブルマシンを作りたいと思うようになった。そんな中、「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」と出会い、新たな発想や刺激を得るチャンスと考え参加した。

思いを具現化した プロダクトの誕生

当初は一つのハンドルを回すことで複数のからくりが同時に動き、あらかじめ組まれた

コースを球体が転がるマーブルマシンを制作するつもりだった。しかしエリアオンサルティングで、サポートメンバーの川又俊明氏から「これらのからくりは別々に販売できるのか」と問われ、「球体を上に乗る機能を一つ、独立した複数のからくり」というアイデアが浮かんだという。

そして試行錯誤の末で

き上がったプロダクト「corotus（コロタス）」は、アイデア次第で人それぞれ、無限のボール移動パターンを作り上げることが可能にするマーブルマシンのキーパーツとなった。



中央はアドバイザーの川又俊明氏、左は妻のめぐみさん

コロタスは、ハンドルを回して歯車を回したり、並んだ棒を動かしたりする方法で樹脂製のボールを下から上に移動させる独立した8種類の装置で構成されている。これらを市販の積み木のレールなどで連結することで、例えばボールを巡回させたり、枝分かれしてゴールに向かって進ませたりするマーブルマシンを組み上げることができる。ハンドルの取り付け場所を装置ごとに前後あるいは左右に2カ所作ることによって装置を自由な向きに設置できるようにし、コース設計の自由度を高めた。

プレゼンテーションでは、真上から見たら、原田さんの



原田 和明
山口／オートマタ作家

1974年山口県光市生まれ。2002年オートマタ制作を始める。2006年から2007年の間巨匠マツ・スミス氏に師事する。そして、University College Falmouth大学院卒業後、2008年山口市秋穂に工房「二象舎」を設立。現在オートマタの制作や国内外で展示を行っている。2015年工芸都市高岡クラフトコンペティション優秀賞、他受賞。



完成プロダクト「corotus（コロタス）」

誰もが自由に遊んで 楽しい作品に

出身県の「山口」の文字になるようにボールが動くルートを組み上げ、地域性とともにちょっとした驚きと笑いを演出した。天然木の質感を生かすため、あえて着色はしなかった。作品の汎用性を高めるため「市販の積み木と合うようにコロタスを規格化するのが難しかった」という。

複雑なからくりを持つオートマタは誰でも作れるものではない。しかし、コロタスと



オートマタの部品を切り出す原田さん

